一般社団法人

愛海詩 えみし

三州（愛知県）若鬼士会
鬼瓦・飾り瓦
四人展
魔除け・厄除け
4月22日～5月18日

彩遊の号　No.52
（一社）愛海詩
会　報
令和７年４月５日発行
編集発行人／一般社団法人愛海詩
佐藤睦子
〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX／(011)613－1112
WEBSITE
https://i-emishi.com/
E-mail:issya@emishi-s.com

「巡る今、巡る春」

佐保姫が北の街に降り立ち、「梢の春」を届け、「二十日草」をみせてくれるような、そんな春が巡って来ました。

（一社）愛海詩、令和七年の作品展は「三州(愛知県)鬼瓦、飾り瓦、四人展」から始まります。この新しい春の光を待っていたかのように、エネルギーに充ちた作品展です。多くの皆様と共に語り、微笑み感動し合いたいと思います。今年も素晴らしい企画、講演会や作品展、展示会など、精力的にこなして行こう…とスタッフ一同、その時々の出会いを楽しみにしております。

「愛海詩」が生まれたての頃、初年、二年目、三年目と、続けて三州鬼瓦の作品展をさせていただいたことを懐かしく思い出します。私もまだ若く、右へ行っては頭を打ち、左へ行っては道に迷い引き返す、そのような右往左往があったように思う中で、導（しるべ）の一つが素晴らしい職人、作家の技と心でありました。それは、今も変わりません。四半世紀の時を越えて、この春また、三州鬼瓦の作品展の華を「愛海詩」で咲かせられる事に不思議なご縁を感じ、またこのご縁を皆さまにつなげたく思います。北の街には薄いと言えるこの瓦の文化を多くの方々に作品を通して、ダイアローグ(対話)していただけたら幸いです。

今この時の積み重ねを生きている私達の縁（えん）は、過去や未来にもつながっています。過去、今、未来は円環を成していると思うのです。私達は生命、今現在を生かされていると実感します。

その今の一瞬において、過ぎ去りゆく時を生きているかのように思われますが実は、繰り返しを生きているとも言えます。一切は無くなったかのような道を辿ろうと、一切は再び花開くのです。今、また巡り来た春に、二十五年振りの作品展に思うことであります。

春風に頬を撫でられながら、愛海詩へいらして下さい。愛海詩の巡りくる季が皆さまと共にあることを願いつつ、今この季を大切にしたく思います。

（佐藤　睦子）

お知らせ

５月８日(木)、午前１１時から、約１時間、ＦＭラジオカロス札幌７８．１Ｍｈｚ「木曜而今」の番組に、若鬼士会会長・梶川賢司氏が出演されます（５月１０日〈土〉再放送）。三州鬼瓦の歴史や文化、自分たちの仕事のことなど語っていただきます。是非、お聞き下さいませ。

ご挨拶～作品展によせて～
（若鬼士会会長梶川賢司）

この度、愛海詩の佐藤睦子様よりお話を頂きまして二十数年ぶりに、「三州鬼瓦・飾り瓦四人展」を開催する運びになりました。心より感謝申し上げます。この機会に札幌・北海道の沢山の皆様に、是非、魔除けとしての鬼瓦、守護鬼瓦、飾り瓦を見て、触れて下されば幸いです。連綿と続く瓦の歴史の技を受け継ぎ、守破離の心意気で、作品と向き合いつつ、丁寧に彫り進めた作品ばかりです。守護鬼瓦(守護鬼面)は、皆様の幸せとご繁栄を心より願い制作しています。にらんだ怖い顔の中にも、優しさや愛嬌のある作品を表現しようと心掛けています。

作品としては、鬼面鬼瓦、狛犬(シーサー)、社、宝船、レリーフ、鬼面オブジェ、ダルマ、ペーパーウェイト、カード立て、ストラップの御守りなどの沢山の飾り瓦を展示させて頂きます。萩原尚、加藤宣高、神谷寿、梶川賢司の四人の個性溢れる作品の数々をご高覧下さい。

私(梶川賢司)は、五月八日～十一日」の予定で来札いたします。作品を通して皆さまのお話し、笑顔と相まみえることを今からワクワクして楽しみにしております。皆様のご健康とご多幸を願っております。

お誘い
梶川賢司氏を囲む会

5月9日(金)、10日(土)、15日(日)のいずれかの日、午後2時～午後3時30分

場所　（一社）愛海詩　2F
参加費　4,000円（お茶、お菓子、梶川氏のお話、おみやげ付）
人数　各日、先着4名様（愛海詩へご予約下さい。）
どなたでも参加できる楽しく、有意義な会です。

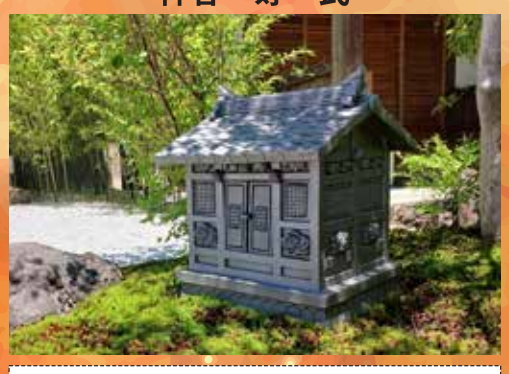
梶川氏は5月8日(木)～5月12日(日)の午後1時30分から、午後5時まで愛海詩におります。梶川氏（職人）との交流もしていただければ幸いです。（上記、囲む会には予約がいります）

お知らせ

（一社）愛海詩の2階では折々に展示会や作品展をしております。常に文化の発信を旨として励んでおりますが、主に展示会の時の発信はホームページ、インスタなどを使っております。（会報下、右と左はQRコードです）折々にアクセスしていただければ幸いです。

約 25 年振りの「三州鬼瓦」の作品展です。この作品展を皆さまにご紹介できますことを大変うれしく、誇りにも思います。三州鬼瓦は国指定の伝統工芸品でもあります。瓦は仏教の伝来と共に、その技術を百済より4人の瓦博士が来日して伝えました。1400年以上の間、技術の変化がありつつも現在も手仕事によって守られている文化です。技術を会得するには少なくとも10年の経験が必要だと言います。今回、作品展をしていただく4名はしっかりとその技量を培っています。厄除け、招福、火災よけ、水害よけなどの人々の願いを叶えると言われる鬼瓦、飾り瓦。三州（愛知県）では、原料となる豊かな、良質な粘土に恵まれ、全国一の産地でもあります。鬼面、獅子、社、レリーフ、小物類など、約40点を展示致します。どうぞご高覧下さいませ。

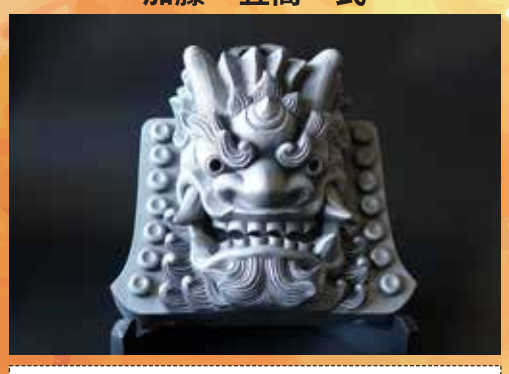
神谷　寿（ひさし）　氏



祠・社
（横31cm×縦38cm×奥行28cm）
技を活かし、心を込めて創った渾身の作品です。１つ１つのパーツを丁寧に創り、扉は開くようになっております。三州瓦の土特有の燻し銀の色彩が醸し出す独特の素晴らしい風情が感じられます。

略歴　昭和４４年生まれ。愛知学院大学を卒業し、少し他社に勤め、家業の㈱鬼栄に入社。鬼栄は１０２年の歴史と伝統を持ち、瓦作りの豊富な経験と確かな技術を持ちます。関わった仕事は浅草寺、歌舞伎座(東京)、安土城資料館、横手城(秋田)など多数。㈱鬼栄三代目。

加藤　宜高（よしたか）　氏



尺寸本鬼面
（横35cm×高さ30cm×奥行29cm）
全て手作業により迫力のある鬼面です。研きヘラで丁寧に光沢を出し、妥協することなく掘り進めた逸品です。額に火焔宝珠をのせて守護神としてのパワー、しなやかさを合わせ持つ実に魅力的な本鬼面です。

略歴　昭和４３年生まれ。三州鬼瓦伝統工芸士。愛知県鬼瓦技能評価上級認定技能士。鬼師歴は３０年。大学卒業後、窯業関連機械メーカーで３年勤務した後、家業の㈱丸市に入社。丸市は手彫りの技を駆使した、全国唯一の瓦家紋専門工房といえます。(家紋原型のストックは１万点以上です)また、瓦素材を活かしたインテリア、エクステリア商品の開発もしています。関わった仕事は知恩御影堂(国宝)、皇居、宮中三殿をはじめ、全国の著名物件の家紋など多数。㈱丸市の三代目。

梶川　賢司　氏

獅子巴蓋１対
（横33cm×高さ36cm×奥行23cm）
鉄ベラなどを作い、手作業で成形し、30時間かけて燻し焼成した作品で、曲線が美しく獅子の表情も豊かです。寺社仏閣の守護像として使われますが、玄関、庭、お部屋などにお守りとしても飾られます。

略歴　昭和３１年生まれ。三州鬼瓦伝統工芸士。愛知県鬼瓦技能評価上級認定技能士。日本鬼師の会副会長。名古屋造形芸術短大彫塑科卒業後、父、叔父の指導のもと、４０数年にわたり、鬼瓦作りに精進している。関わった仕事は照光寺(茨城県)の鬼面、鬼座像唐破風鬼獅子など。サンフランシスコ金門橋公園日本庭園。愛知国際展示場貴賓室の守護鬼面オブジェなど他多数。魂が込められているような作品の数々には定評がある鬼百製鬼所の四代目。

萩原　尚（ひさし）　氏

龍・レリーフ
（横17cm×縦17cm）
邪気を祓う龍、水を司る龍は海の安全を守り、田畑に雨を降らせるとも言われ、「豊漁」「豊作」の願いもあり、やさしげな表情が開運につながって行くようです。

略歴　昭和２６年生まれ。三州鬼瓦伝統工芸士。愛知県鬼瓦技能評価上級認定技能士。ＹＡＧデッサン研究所を経て、家業の鬼瓦業に従事。文化財修復、数々の歴史に残る仕事を手掛けている。陶壁の製作、工芸品なども幅広く製作している。関わった文化財は八坂神社、天龍寺、今宮神社、金閣寺(京都)、光福寺、清水寺、善光寺(長野)、松本城など多数。萩原製陶所の三代目。

EMISHISAPPORO

ご案内　**藤原美子講演会**
◯日時：6月28日(土)　午後2時30分～午後5時
◯場所：ザ・ルーテルホール（中央区南大通6丁目）

演題　「藤原家の流儀　私の来し方　生き方」
チケット代　一般４５００円　愛海詩会員４０００円
数学者、小説家の藤原正彦氏は夫、小説家の新田次郎氏は義父にあたり、その文化人家族のこぼれ話や海外生活が長く、グローバルな視点を持つ美代子氏の出会いと生き方を語ります。

HP